

# チェコから 来ました ペトルです

2週間のショートステイで我が家に預かったチェコからの客人、ペトル君をならやまベースキャンプに案内した。本名、ペトル・マツナウエル、身長187cm、21歳にして若干幼さを感じさせる長身の好青年である。昨年度のチェコ日友好協会主催日本語弁論大会上級者コースに見事優勝。副賞のチェコ・日本間往復チケットをゲットし、それが今来日日の切っ掛けと成った。



子供の頃知り合った日本人の友達の影響で日本に興味を持ち、特に「ドラゴンボール」を始めとする日本のアニメからは、色々な日本語を学んだ様である。実際、その漫画から知った言葉と後で分かったが、二月堂関伽井屋に張られた榊と注連縄を見て、「これは結界ですか？」と聞かれた時には、こちらも度肝を抜かれた。奈良滞在中、市内観光はもとより、落語、講談、能、箏、書道等多くの日本文化に触れ、大仏殿のお身拭い、燈花会も見学、充実した毎日を過ごした。そうした彼の日本の印象は、老若男女を問わず全ての日本人が、何事においても非常に行動的であると言う事であった。



特にならやまでは、ソバの種撒きなど実際の活動に参加し、その活動の楽しさを自身の肌で実感した様である。打ち上げ時の感想で彼自身が述べた事であるが、人々の互いの協力で農地を再生し、これだけの景観を維持している事に深く感動したと言う。また彼の眼には、参加者全員が各自選択した仕事に責任を持ち、積極的に当たっている姿が特別なものに写った様である。

彼からは他にも日本称賛の話が次々と出た。はじめは彼の買いかぶりとの思いが強かった。しかし、彼の素直な意見を聞いている内、日本人には海外の人が羨ましがれる程の誠実さが有り、伝統・文化に育まれた慎ましい国民性が有る事に、徐々に気付かされて行つた。悪い面ばかりを採るのではなく、良い面を見つけ、それを素直に認識し、明日への活力に繋げる事の大切さを改めて知った思いである。



(文責 辻本信一)